

『FOR』ではなく『WITH』の精神
 『~のために』ではなく『~と一緒に』というボランティアができたら最高だ。

『FOR』ではなく『WITH』の精神

理学部 物理学科 2年

後藤 渉

『FOR』ではなく『WITH』の精神。

これは私が理想とするボランティア精神です。私は大学から国際ボランティアを始めました。地域NGO・自治体などと一緒に様々なボランティアをやってきました。これらの経験により私は被ボランティア側の立場も考えなければならぬと痛感しました。本人の自立も考えなければならぬという事です。それを含めてこそ真のボランティアだと思うのです。『~のために』ではなく『~と一緒に』というボランティアができたら最高だと思うのです。また私

は2年になり剣道部に所属しました。これからは『日本文化を世界の人に教え、世界の文化を取り入れる』という、一方的ではない国際交流をしていきたいです。



本人右から2人目

思いがけない始まり

医学部 医学科5年

市川 寛(話し手)

精松 沙織(聞き手/医学部 医学科4年)

去年の2月、投票で医学祭委員長になり、僕の医学祭は始まりました。大変らしいし、当時テニス部の主務として多忙だったので一度は断ろうかとも思ったくらいです。

活動の始まりは何からするかもわからない状態でした。仕事の分担がうまくいかな

テストや実習期間中に夜中に集合するようなハードな毎日を乗り越えられたのは、スタッフがよく動いてくれたおかげです。



かったため宣伝活動を全てストップさせたこともあります。テストや実習期間中に夜中に集合するようなハードな毎日を乗り越えられたのは、スタッフがよく動いてくれたおかげです。その結果、自分たちの手で医学祭を独自のものにできて満足しています。今年もそうなるといいですね。

そろそろ医学科だけでなく、保健学科と一緒にもっと盛り上げていければと思います。今年の委員長以下に期待しています。(今年の医学祭は10月26・27日開催です。)

ぼくは野球のために、野球はぼくのために

歯学部 5年

野田 明成(話し手)

梶田 桂子(聞き手)

2002年6月1日、W杯初戦カメルーン対アイルランド戦で新潟が熱く燃える中、我が歯学部野球部も全国大会出場を決めた。今回は、ウィニングボールを捕った前主将の野田君にインタビュー！野田君が野球を本格的に始めたのは小4の頃。以来受験による中断をはさむものの、持ち前の根気で23歳になった今も野球を続けている。毎日30分の素振りには欠かさない。なぜそれほどまでに野球と向き合うのか。「今の人間関係、積み重ねてきた経験の多くを野球からもらった。他のスポーツをやっている自分なんて想像できない。野球は僕の一部。」

今の人間関係、積み重ねてきた経験の多くを野球からもらった。

と彼は言う。そんな彼と仲間たちは意識改革に努め、それまでのチームの負け犬根性を打破、今年見事にリーグ優勝を果たした。「ただ野球が好きだから。仲間を信頼しているから続けていける。」全国大会という大舞台でのチームの完成を目指し、彼は今日も素振りを続ける。



「楽しい」の発見

工学部 福祉人間工学科 3年
田中 正太郎

大学生活4年間は今しかできないことを思う存分やる時間ではないだろうか。たいていの人が大学後就職をし、決められた枠の中で生活を強いられてしまう。そうなる前にやりたいことはとことんやらなくては損である。私は2002年春、1ヶ月間を東南アジアで過ごした。多くの人、文化、価値観に出会い、人生観を考え直させられた。私にとってこの旅は新しい発見の連続で、

大学生活4年間は
今しかできないことを
思う存分やる時間では
ないだろうか。

「楽しい」のかたまりだった。

酒を飲む、友達と遊ぶ、そんな「楽しい」ではない、自分を変えるような「楽しい」を僕は今でも探しています。

くさいことを書きちゃいましたね。でも若いうちだけだから、少し感情的にもなるだろうし、本当に楽しければ人から何を言われても気にならないだろうし。何年も先を見て「さめてるなあ」って感じる人もいますよね、命と時間はとり戻せないので、大事にしていこうと僕は思います。

大学を面白くするには

農学部 農業生産科学科 2年
村山 貴規

みなさんの大学に対する満足度、大学生である自身に対する満足度は、何%でしょうか？ちなみに、僕の場合は、前者が40%、後者が50%です。このように、僕は、自分の意識を明確にし、客観的に判断することを習慣付けています。例えば、この習慣を大学の諸活動に当てはめたとします。現在、総合研究棟の建設、教養棟の改修、道路の舗装など、大規模な工事が、行われています。これに対し学生は、不満や疑問を抱きつつも、意見を交わす相手や機会がないため、わかっちゃいるけど、悶々とした日々が続いています。今、僕はこの状況に楔を打とうとしています。この楔は、黎明祭、大学祭といった大学行事から、大学の日常のいたる所に現れます。その楔に、敏感に反応し、異議を唱える人が、どんどん現れ、議論と実践の充実した大学になることを期待し、僕の話を終ります。



楔に敏感に反応し、
異議を唱える人が、
どんどん現れ、
議論と実践の充実した
大学になることを
期待します。